令和４年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 森丘　保典

研究課題名	競技スポーツのコーチング実践における効果的な量的・質的情報（データ）の収集・分析および活用方法に関する研究
研究目的及び研究概要	昨今の小・中・高校期（以下、ジュニア期）のスポーツ環境においては、国内外の競技会の高度化・低年齢化やタレント発掘事業の実施などによって、早期専門化やトレーニング負荷の増大などによる子ども達への身体的および精神的な負担の増大が懸念されている。また、ジュニア期における競技スポーツの早期専門化や全国規模の大会開催などの是非については、依然として二元論的な議論に留まっており、具体的な方策が示されているとは言い難い。 そこで本研究では、国内一流競技者の競技パフォーマンスの変遷について量的研究法を用いて明らかにするとともに、彼らの育成・強化プロセスについて質的研究法を用いて把握することにより、ジュニア競技者に対する望ましいトレーニングやコーチングのあり方や育成・強化システムのあり方について、総合的に検討するためのエビデンスを提示することを目的とする。 ①各種競技会において映像情報を中心とするパフォーマンス分析を行い、量的・客観的情報（データ）を収集・分析する。 ②競技者のスポーツ歴（競技ヒストリー）について、半構造化面接法などを用いたインタビュー調査を行い、質的・主観的情報（データ）を収集・分析する。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	①各種競技会における日本トップレベルの選手のレースパターン分析を行い、その傾向を明らかにするとともに、選手やコーチにデータをフィードバックすることによって、トレーニングやコーチング実践に活かすことができた。 ②競技者のスポーツ歴（競技ヒストリー）については、日本および世界一流競技者におけるジュニア期からシニア期かけての競技パフォーマンスの変遷や、若年期のアスリート育成に関する国内外の動向について検討し、今後の具体的な施策に資する基礎資料を公表することができた。 今後は、インタビュー調査などを実施しながら、育成・強化システム（モデル）構築に向けた情報を収集・分析することが課題となる。 ・論文①：Keitaro Seki, Tomoki Nagano, Kiyohide Aoyama, Yasunori Morioka「Squat and Countermovement Vertical Jump Dynamics Using Knee Dominant or Hip Dominant Strategies」Topics in Exercise Science and Kinesiology、86巻、63-71ページ、2023年. ・論文②：森丘保典, 谷口勇一「スポーツ指導者の養成および活用における大学地域連携のあり方：運動部活動の地域移行化動向を踏まえて」大学地域連携学研究、第2巻、15-22ページ、2023年. ・著書①（共著）：基礎から学ぶスポーツ概論（第3章2項「目的に応じたトレーニングプログラムの作成」を執筆)、大修館書店、88～91ページ、2022年4月1日. ・著書②（共著）：新高等保健体育（スポーツ科学の役割について考えてみよう（体育編第３章：豊かなスポーツライフの設計）を執筆)、大修館書店 、194ページ、2022年4月1日. ・著書③（共著）：現代高等保健体育（スポーツ科学のすすめ（体育編３単元：豊かなスポーツライフの設計）を執筆)、大修館書店、303ページ、2022年4月1日. ・著書④（共著）：陸上競技コーチングブック（第4章「競技者育成の基本的な考え方」を執筆）、大修館書店 、35-45ページ、2022年7月10日. ・著書⑤（共著）：スポーツ白書2023(諸外国の取り組み（５章Ⅱ-6：）を執筆）、笹川スポーツ財団、-ページ、2023年3月29日. ・学会発表①（一般発表）：近藤克之、森丘保典、尾縣貢「短距離走の伴走者の熟達化に関する質的研究」日本コーチング学会第34回大会、2023年3月1日、日本体育大学. ・報告書①：森丘保典「オーストラリアにおけるフィジカルリテラシーに関する取り組み」日本スポーツ協会・スポーツ医・科学研究報告、2023年3月. ・報告書②：杉本和那美、森丘保典、貴嶋孝太、柴山一仁「2022年シーズンにおける男女400mハードル選手のレース分析」日本陸上競技連盟・陸上競技研究紀要、第18巻、2023年3月. □